

テーマ

三笠はひとつ 三笠はならのまほろば

目標

伝統や文化・誇りを再認識させ、新たな郷土愛や誇りを育む。

今年度の取組紹介

○子ども未来会議

第6回子ども未来会議では『豊かさについて考えよう ～人・もの・心～』をテーマに開催しました。各校で前もって学習してきた「豊かさ」を地域の大人も含めて交流し合いました。中学生がリーダーとなり司会進行やまとめ役を行いました。校区の小学生・中学生・大人が、自分たちの未来や、本当の「豊かさ」とは何かを一緒に考える良い機会となりました。



○なら三笠まほろば文化祭

幼稚園・小学校・中学校・地域の文化交流会を開催しました。

日頃の練習の成果を存分に発揮し、客席からは拍手や声援が送られ大好評で、子どもたちは素晴らしい出会いと感動を感じることができました。また、当日の司会や、裏方としての運営にも地域の方と中学生が「協働」で行い、大きな達成感を味わえるイベントとなりました。



今年度のまとめ

今年度も、ドッジボール大会により小学校間の交流を深めたり、校区内の幼小中で「ノーメデイアデー」キャンペーンや「家族のきずな 三行詩」の取組を実施し、各家庭への働きかけを行ったり、未来会議を通じて、大人と意見交流をして自分の考えを伝えたり、100年会館の大ホールで日頃練習してきた成果を披露したり、様々な視点で地域の子どもたちへの取組を進めていくことができました。各事業とも回を重ねコーディネーターの動きもスムーズに行われています。さらに運営も小学校区ごとに持ち回り、各々スキルアップしています。今年度も、校区内の教職員と地域の合同研修や地域連携に関する会長・副会長の講演の実施など教職員の意識改革を推進していく取組も行いました。これらの事業や日々の活動を三笠中学校のHPで公開し、取組の総括(アンケート結果)なども掲載して、広く情報公開に努めました。

来年度に向けて

今後、これまで取り組んできた6年間の軌道を修正しつつ推進していきます。具体的には、各事業内容をさらに魅力あるものとするため工夫や精選をすると同時に、活動目標に照らし合わせ各事業を共に作っていくという参加者の協働意識を育めるよう取り組んでいきます。また、地域の方も各種団体の委員を兼ねている方が多く、教職員の人事異動も考えると関わる人材の裾野を広げ、幅広い方々に関わっていただけるよう展開していく必要があります。

テーマ

地域コミュニティ形成と絆づくり

目標

保護者・地域と連携し特色ある学校・地域づくりを推進する。

今年度の取組紹介

本校は地域教育協議会を『コミュニティ・スクール』の実働組織として位置づけ「学び支援」「育ち支援」「地域連携」「学校評価」の四つの部会を組織しています。部会は、学校の教育目標を学校・家庭・地域で共有し、組織的・機能的に運営していくことで職員、保護者、地域の協働意識を高めるとともに、生徒の抱かえている課題をそれぞれの立場で把握し、具体的な活動に取り組み課題の解決に努めています。教員がする授業づくりの時間確保のため、図書ボランティア、放課後や土曜日などの課外授業から、キャリア教育・道徳など教育課程内にも支援を広げています。さまざまな実社会での経験を持つ大人が工夫をこらした授業を展開することにより、子どもだけでなく教員も課題解決力の向上や、明確な教員としての目的意識・責任感を養うことにつながってきました。また、防災訓練や地域まつり・清掃活動に参加し、地域の方々との活動をとおして社会性やコミュニケーション能力を育み豊かな人間性を培っています。特に高校



受験に向けた面接の練習として、企業勤務経験者などの地域住民が面接官となり、高校進学だけでなく勤労観・職業観を養い社会自立をしていくことに対する目的意識を持たせることにつながっています。4回目となるスポーツフェスティバルも地域・小中教員の交流を深め、地域住民・小中PTAネットワークを高め、地域プライドの醸成を図りました。

今年度のまとめ

全教職員が小学校区に分かれた「地区担任」の組織化を図ることにより教職員の意識が高揚しています。また、地域人材の依頼と調整や家庭・地域・関係機関団体との情報連携のネットワーク化の充実・強化にもつながりました。地域では、「地域の子どもに対する関心が深まった」「学校以外でも地域のために何かやってみたいと考えるようになった」「来年も地域に貢献したい」などの声上がり、学校行事に対しても保護者だけでなく地域住民、地域団体も積極的に参加するようになりました。

来年度に向けて

これまでの組織や活動内容を大きく変えることなく、その力を活かしていきたいと考えています。そして、学校や子どもたちのために活動することを通して『学校・地域のみんなが育つ』ための核となる組織を目標にさらに模索していきます。

テーマ

世界にはばたく 世界で生きる 椿井っ子

目標

地域の教育力を活かし、特色ある教育活動を創造する。**【今年度の取組紹介】**

奈良市の中心部に位置、多くの社寺や観光名所が校区内にある本校は、長い歴史と伝統を有する学校であり、地域の方は愛校心が強く、また、学校教育に対する関心も高い。そのため、何事にも協力的である。こういった素晴らしい環境や地域の教育力を生かし、自分たちのまちに誇りをもつとともに、積極的に活動し、表現や発信のできる児童の育成をめざして取組を進めました。

活動としては、大きく次の5つの活動を行いました。

「ようこそ地域の名人さん」では、運営委員会委員及び地域の方を介して、さまざまなジャンルの人たちをゲストティーチャーに招き、多様な活動を行うことができました。例えば「昔遊び名人」では、地域在住の高齢者が昔遊びを子ども達に教えていただき、交流を行うことができました。また、本校が進める特色ある教育の具現化として、「英語絵本の読み聞かせ」や「手話交流会」などについては、継続的に取り組むことができ、学校単体では難しい成果を得ることができました。

「地域の行事に参加しよう」においても、地域の方との交流を行うことができ、子ども達の地域を誇りに思う気持ちを育むことにつながりました。

「奈良のよさを知ろう・伝えよう」では、校区の特長を活かして、地域遺産や伝統文化に出会うことができました。南都楽所の方々による「雅楽鑑賞」は、ほんものに出会う良い機会となり、自分達の住む町の素晴らしさを実感することができました。



「命の学習」。低学年では、赤ちゃんの誕生について学び、たった一つしかない命について家族の人の思いとともに学ぶことができました。他にも、視覚障害者の方との交流を行う「見えないってどんなこと」、自分らしく生きることを学ぶ「LGBTについて」など、子どもたちなりに共生していくことを考え、自らの生き方につなげることができました。

「学校の環境を整えよう」。学校敷地内の樹木のメンテナンスや花育て、学校図書館の整備など、学校だけではなかなかできないことを地域の方に協力いただき進めることができました。

【今年度のまとめ】

本事業をとおして、学校だけでは、進めることが難しい多様な教育活動を展開することができました。子どもたちが、多くの人たちとの関わりから、自分たちの住んでいる地域の素晴らしさを再発見することができました。また、学習や交流を通して、一つ一つの事象や歴史に、その時々関わった人の思いがあることに多くの子ども達が気付くことができました。環境整備活動においても、自分達の学校や地域を大切に思う大人の存在に子ども達は改めて気づき、感謝する気持ちを育てることができました。

【来年度に向けて】

本年度の成果をふまえ、継続して行う事業は工夫し、子どもたちにとってよりよい内容のものを考えていきたい。また、地域の「いつでも協力をする」という声もあります。外部人材の活用も含め、本校の教育目標の達成を図れるようにしていきます。

事業名

地域とスクラム、学びが深まり、**健やかな心と体が育つ大宮アクション**

目 標

健やかな心身を育み、最後まであきらめずにやり遂げようとする力と、自他の命だけでなく、命あるものを大切にしていこうとする心情をもった児童を育てる。その上で地域の人々とのふれあいを深め、人としてのものの見方、考え方を学ぶとともに、生まれ育った「大宮のまち」に誇りをもてる児童を育成する。

今年度の取組紹介

- ＜大宮まつり キッズニア in 大宮まつり＞ 「子ども盆踊り」や地域の方とともに遊んだり、お店で買い物をしたりお店のお手伝いをするなど、祭りに参加・参画することで、地域の人たちとふれあいました。
- ＜ふれあい昼食会＞ 地域の高齢者を招いて、6年生と共に話しをしたり、発表をしたり、カレーを食べたりして、交流を図りました。
- ＜キッズニア in もちつき大会＞ 校庭で地域の方と一緒に餅をついたり、児童がお店のお手伝いをしたり地域の人たちとふれあいました。
- ＜大縄大会＞ 3分間で大縄を何回飛べるかをきそうクラス対抗戦。チームワークの獲得により心が育ちました。
- ＜健康かけ足＞ 一人一人が自分の目標を決めて、自分の限界に挑戦しました。
- ＜お話しの会＞ 学期に一回、お話し会の方に読み聞かせをしてもらうことで、豊かな気持ちが育ちました。
- ＜ガンバ読書＞ 週2回、朝10分間全校一斉の読書タイム。豊かな心、優しい気持ちが育ちました。
- ＜人権講演会＞ 地域の方たちと一緒に人権について考え、人権意識を高めました。
- ＜図書ボランティア＞ 図書室の環境を整えたり、図書の修理をしたり、子どもたちの読書環境を整えました。
- ＜学校園応援サポーター＞ 2年生の地域の名人さんに学ぶ学習・戦争・昔の大宮の様子・見守りなど、子どもたちの学習の支援を行いました。



今年度のまとめ

地域の人々との交流や協働からは、自分は多くの人とのつながりの中で生きているということ、今の自分にできることは何かということに気付き、考え、行動する児童の育ちが現れてきています。

高齢者の方々とのふれあいを通して、自分も人に喜んでもらえることができること、喜んでもらえることは自分の幸せにつながるということに気付いたり、児童が行事への参加だけではなく、計画から反省まで参画することなどを通して、自分もこの大宮の地域の一員であり、自分が地域のためにできることを考えていこうとする意識の芽生えにつながっています。

来年度に向けて

児童がアイデアを発信し、企画などに参加・参画していく活動を行いました。地域の人に支えてもらっていることに感謝をしつつ、自分たちができることを考え、行動できる児童を育てたい。

今後さらに地域の方と一緒に活動する場面を多くし、もっと子ども達が地域の方々を身近に感じられるようにしていきたい。

テーマ **地域で学び 地域から学び 地域に働きかける 大西っ子**

目標 「わたし大好き あなた大好き 学校大好き わが町大好き」
と思える児童の育成

今年度の取組紹介

校区を流れる佐保川・自然環境をテーマにした学習に継続的に取り組んでいます。3年生の佐保川的环境学習では、本年度は地域の方も講師としてお招きしました。自らが住む地域の川としての視点からのお話を聞くことによって、児童が佐保川により興味をもつきっかけとなったと感じます。5年生では森林学習を通し、森林と河川をめぐる環境学習を深めています。

昨年度、ビオトープが完成し、6月にホタルの幼虫の放流をしました。水を循環させるなど改修が必要ですが、佐保川学習と並行して水生生物の観察に使用しています。

11月実施の「川辺のまちづくり」では、オープニングイベントで大勢の地域の方の前で6年生が雅楽や合唱を披露しました。南都学所の講師先生・音楽科教員の指導の下、毎年自主的な児童による下学年への指導の流れができ、本校の伝統となりつつあります。地域への所属感やリーダーとしての意識をもつ良い機会となっています。



同日に行われた地域の方との佐保川清掃では、参加する児童が年々増えてきています。そのあと実施された、講師を招いての川辺の学習会では、本年度は70名近くの子



どもたちが佐保川に入り、保護者・地域の方とともに魚や水辺の生き物を捕獲し、体育館で観察しました。生息する魚の種類が、昨年の11種類から13種類に増えたことがわかりましたが、実は増えたのは外来種と判明しました。生態系におよぼす影響が懸念されると教わり、自分たちが住む地域の自然環境を守っていく大切さや難しさに気付いたようです。佐保川をめぐり、学校・保護者・地域が一体となった充実した取組を展開できました。

今年度のまとめ

豊富な行事に学年間で参加体制を調整して取組めました。児童たちは、地域の方とともに佐保川清掃に参加することで、「数年前まで汚れていた佐保川が現在のように美しくなったのは、地域の活動によるものだ」と聞いていたことが実感できたようです。継続的な取組により、春は満開の桜、秋は紅葉で彩られる美しい川辺で、四季を通じて地域の方・子どもたちが集う光景がみられます。

一年を通し、クラブ活動・体験学習・読書活動・実技指導支援等幅広い内容で地域の方々に協力していただき、充実した学習活動が展開できました。また、第3回目を迎える校区成人式では、87名の卒業生が集い、TVニュースでも放送され、地域とのつながりを再確認する取組になりました。

来年度に向けて

児童の地域行事への参加は年々増えていますが、お世話になった方の名前を覚える、地域の方に元気な挨拶をする等、内面の成長に目を向けた取組の必要性を感じます。児童の活動意欲を大切にする、各行事の取組に班活動を取り入れて横のつながりをつくる等、規律ある集団作りを意識した取組を工夫していきたいと考えています。また、人材の発掘や組織整備も継続していきたいです。

テーマ **佐保川小の校区を愛し、校区に誇りをもつ子の育成**

目標 **地域にある自然環境や文化的歴史遺産、また地域の豊かな人材を活用しながら、心豊かで人や物だけではなく、佐保川地区を愛する子どもを育む。**

今年度の取組紹介

① 佐保川清掃



5月18日(土)子どもたちと地域の各種団体合計300人以上が参加して、佐保川のゴミ拾いや草刈りを行いました。「佐保川」の環境を守る活動として、地域の人と協働で取り組む佐保川清掃は、生きた学習環境を提供してくれる「佐保川」をみんなで大切にする地域の方々との気持ちをつなげる大切な取組です。

② とんど焼き

1月18日(月)チェリーネットを中心とした地域の方々そしてPTAの方々の協力で、今年から学校の行事としてのとんど焼きを行うことができました。お知らせ・竹きり・わらの手配・竹組・正月飾りの処理など様々な準備をして頂き、全校児童が見ている中、大きな炎が燃え上がり、竹のはぜる音に子どもたちは驚いていました。地域行事を学校で行うことで、子どもたちと地域の協力者との距離もぐっと縮まりました。



今年度のまとめ

コミュニティ・スクール・及び小中一貫教育の始まりの本年度は、地域と学校との繋がりが見える形で進めてきた。登校時の守り活動を始め、平城宮跡でのマラソン大会やドングリ拾いの安全確保の活動を通して、子どもたちがより身近に地域の方々と接し、感謝の気持ちを育てる取組として進めることができました。

来年度に向けて

様々な教育課題を抱えながらも日々の実践を重ねている中で、地域の方々は多くの子どもたちの活動を支援していただいています。今後は、コミュニティ・スクール及び小中一貫教育を推進するため地域の各種団体との連携を密にし、さらに佐保川小の校区を愛し、校区に誇りをもつ子を育ててきたい。

テーマ

育ち合おう!感動いっぱいの幼稚園

目標

- 楽しみながら体を動かしたり、集団で遊んだりする機会を多く持ち体力・運動能力の向上を目指す。
- 英語活動の機会を持ち、豊かな国際感覚が養えるようにする。
- 音楽環境の充実を目指し、音や音楽に親しむ機会を多く持てるようにする。
- 地域の環境や人材を活かしながら、幼児のコミュニケーション力の向上を目指す。

今年度の取組紹介

【「げんきっこクラブ」に参加し体力向上を目指す】

・今年度は体力、運動能力の向上を目指し重点を置いて取り組みました。年間計画に位置づけ、概ね月毎に実施し、幼児の興味関心に合わせたいろいろな動きを取り入れながらゲストティーチャーの方と一緒に思い切り体を動かして遊びました。そこでの経験を日頃の遊びにも取り入れるなどの工夫を行うことで、子ども達が自ら積極的にサッカーなどを楽しみ、元気に活動する姿が見られるようになってきています。



【「イングリッシュで遊ぼう」で英語で遊びながらに親しみを持つ】

・地域のゲストティーチャーに来ていただき、生活や季節の行事など身近な話題の英語で遊ぶ楽しい時を持ちました。年間通して8回行い、回を重ねる毎に先生とのコミュニケーションも深まり、挨拶、歌を歌うこと、ものの名前など、身振り手振りも交えながら楽しく表現していました。「次はいつ先生と会えるのかな。」と次回を楽しみにする声も聞かれました。



【「音楽で遊ぼう」生演奏を聴く機会を持ち、豊かな感性を育む】

・『雅楽の演奏会』、『地域のコーラス「ハーモナイズ」の演奏会』、『脇祐馬さんピアノソロコンサート』、『辻本美博さんサクソ・クラリネットコンサート』、『大学生によるアンサンブルコンサート』など地域の方にゲストティーチャーとして来園していただき、地域の方、保護者の方も一緒に生演奏を聴く機会を持ちました。実際に本物の楽器に触れたり、楽器を鳴らしてみたりする体験を通して本物の音を耳にする経験は、子どもたちの心に残る感動体験となり遊びの中で表現するなどの姿が見られました。



今年度のまとめ

- 幼児期の健康な心と体づくりには楽しみながら遊びの中で体をしっかり動かして、満足感、充実感を得る経験が重要であることを感じました。年間通して計画的に位置付けることも効果的であったと思います。
- 様々な活動を通して、地域の方の協力やつながり、温かな見守りを感じました。園内だけでは経験することのできない感動体験により子どもたちの豊かな心を育むことができ、保護者の意見の中にも、貴重な経験ができることへの感謝や今後も継続した取組を望まれる声が聞かれます。

来年度に向けて

- 世界遺産への園外保育を含めた、地域の環境や良さを感じられる体験を取り入れながら、体力、運動能力の向上を目指した活動を行っていきたいと考えています。地域の教育力を活かし、園児、保護者、地域みんなが育ち合える場になるよう今後も取り組んでいきたいと思ひます。

テーマ わたし大好き あなた大好き 幼稚園大好き**わが町大好き 大西っ子**

- 目標**
- ・様々な環境と触れ合い心を動かす感動体験を通して豊かな感性やたくましい心と体を育む。
 - ・地域の人材を活かした活動の充実を図る。

今年度の取組紹介

- 「チャレンジクラブ」では地域の方を招き、年間を通して体・動きづくりに取り組みました。体を動かすことが好きになり、挑戦したり意欲的に取り組んだり体力向上につながりました。家族参観「わらべうたあそび」では親子で体を動かし、家庭でも一緒に楽しむ姿となりました。
- 「お話の会」「グランドゴルフ」「茶道教室」「生け花教室」「昔遊びの会」等も積み重ね、子どもたちは多様な感動体験をし、豊かな学びもできました。
- 地域の方々と栽培活動を共にする機会を積み重ね、丁寧に教えていただいたり触れ合いも楽しんで人々の温かさを感じる機会となりました。地域の方々が園に出向き、もっておられる教育力を子どもたちに伝えていただいたことで、子どもたちは様々な経験を積み重ね、地域の方々とつながりの中で心豊かでたくましく成長していくことができました。



今年度のまとめ

地域の方々と触れ合いが多くなり、子どもたちの経験に広がりが見られ、人と関わる力が育ちました。また、温かい言葉をいつもかけていただくことで子どもたちの自信や意欲、人にやさしくできる気持ちにつながりました。園だよりやホームページや地域の会合で園の取組を知らせたことや、地域の行事に参加し子どもたちの成長している姿を見ていただいたことが、より地域の方々が園の取組に目を向け関心をもって関わっていただくようになったと考えます。

各取組に対しては保護者からも高評価をいただいておりますので、内容をさらに工夫して進めていきたいと考えます。

来年度に向けて

園内の遊びの環境も見直し体を動かす遊びの創造に心がけ、地域の教育力も活かした保育内容をカリキュラムに取り入れていきたいと考えます。地域の特色を生かした“地域とともにある幼稚園”を目指して地域の方々の意見も取り入れながら園運営を考えていきたいです。また、地域に温かく見守られていることを保護者にも理解してもらえるように情報発信を心がけたいと思います。